

スタートを待つ気持ち

校長 山 田 顕 次

令和7年度が始まりました。入学式では小学校4名、中学校4名の新生を迎え、昨年度と同様、全校児童・生徒18名、教職員15名でのスタートです。

新しい年度が始まり、いくらかの緊張を交えながら新たな思いでこのときを迎えた人も多いのではないのでしょうか。

児童・生徒のみんなは新しい靴、新しい鉛筆、新しいノート…と新しくきれいなものを揃え、新年度を迎えます。始業式でお話したところですが、この新しくそろえたときの気持ち、一年間にかける思いは、振り返って時々思い出してほしいものです。何か行事を終えたとき、試験の結果が帰ってきたとき、学期のスタートを迎えたときなど、4月のこの時期に描いていた理想の自分に近づけているか、確かめることで自身の成長が見えてくることでしょう。

自分はこの4月独特の張り詰めた、でも楽しみや期待に満ちた気持ちを、クラウチングスタートで号砲を待ち構える瞬間に似たものを感じます。短距離走は決して得意ではありませんでしたが、立ち上がるまでのあの瞬間だけは（まだ差がついていないから？）自分は好きでした。同様に年度の始まりでは、意欲に満ちていて、新しいノートに名前を丁寧に書いていたのを思い出します。

さて、話変わって、本校の目指す学校像は、昨年度から引き続きこの3つを掲げています。

子どもにとって、「楽しい学校・明日も行きたい学校」 教職員にとって、「いきいきと働きがいのある学校」 保護者・地域住民にとって、「安心できる学校・信頼できる学校」

子どもが楽しい、明日も行きたいと思える学校には〈希望〉があります。「今の自分はこれだけできることがある」「自分の自慢できることがある」「こんなことができるようになりたい」「自分のことを周りの人が理解してくれている」など、自身には価値がある（自己肯定感）、自身の存在が周りに認められている（自己有用感）という〈希望〉です。年度始めの懇談でもお話ししたところですが、学校が安心して任せられる場となることが、目標達成の第一歩だと考えます。

学校は、職員同士が組織的に課題の解決に取り組み、安心して学べる学校づくりに励んでいきます。そして、学びの主人公である子どもたちの成長や成果を示していくことで、保護者・地域と良き信頼関係を築いていきたいと考えます。今年度もいろいろお世話になりますが、よろしくお願いいたします。